

プレ展示…4月29日(水)～5月24日(日)  
第Ⅰ期…6月13日(土)～7月20日(月)  
第Ⅱ期…7月28日(火)～9月23日(水)

# 地域の魅力 ふる里再発見

## かきざきはきょう 蠣崎波響と門人たち

- 2 -

伊達市梁川と深いゆかりがある江戸時代の画人・

蠣崎波響。どのような人物か、皆さまはご存じでしょうか。昨年度の大河ドラマ「べらぼう」で、葛重栄華の「夢断」でお笑い芸人のひょうろくさんが演じた「松前廣年（広年）」という

家老であり「波響」という画号を持つ画人でした。松前第8代藩主・松前資広の五男として生まれましたが、のちに家老職を務める蠣崎家の養子となりました。

幼い頃より画技に優れ、江戸で建部凌岱と宋紫石の二人に画を学びます。特に宋紫石からは「南蘋風」と呼ばれる、対象を細密に観察・写生し強烈な色彩で着彩する作風を学びました。

一方、松前藩の家老としては、異母兄である9代藩主・道広と、道広の隠居後は甥でもある10代藩主・章広に仕え、移封の憂き目に遭った困難な時期を支えました。

波響の有名な作品は20代後半の頃に制作した「夷酋列像」という、12人のアイヌの指導者を描いた肖像画です。髪の毛や顔の皺などを細かく丁寧に、鮮やかな色彩で描いた作品です。リアルなアイヌの実像を伝えるその絵は都の人々にも驚きと賞賛を持って受け入れられ、光格天皇の天覧を受けるといふ機会にも恵まれました。

そののち、波響は円山四条派に影響を受け、写実的でありつつも画風が穏やかなものへと変化していきました。松前藩が移封となり梁川へ来た頃の波響は40代で、広瀬川のほとりに「梅瘦柳眠郵舎」という邸を建て、梁川の風光明媚な場所の四季折々の姿を描いた

「梁川八景図」(函館市中央図書館蔵)などを制作しました。

そののち、波響は円山四条派に影響を受け、写実的でありつつも画風が穏やかなものへと変化していきました。松前藩が移封となり梁川へ来た頃の波響は40代で、広瀬川のほとりに「梅瘦柳眠郵舎」という邸を建て、梁川の風光明媚な場所の四季折々の姿を描いた

「梁川八景図」(函館市中央図書館蔵)などを制作しました。



「蓬萊図」 [文化2 (1805) 年]



### 市長コラム 第83回 「伊達ももの里 マラソン大会」

過去の  
コラム



須田 博行

相馬福島道路を霊山側から西に向かい、上保トンネルを抜けると、一面ピンクの絨毯が視界に飛び込んできます。桃花咲き誇る伊達市。自慢の風景がそこにあります。

そんな春真っ只中の4月12日、第64回伊達ももの里マラソン大会が、全国21都道府県から2600人を超えるランナーにエントリー

いただき、全27部門で健脚が競われました。当日は折からの強風で、ゴール前の長い直線が向かい風となる厳しいコンディション

ではありましたが、走ることは大好きランナーにとっては、その過酷さより充実感の方が大きかったようです。

その中で一番印象に残っているのは、小学2年生以下の1キロメートル親子部門でした。スター

ト直後、お父さんやお母さんは、子どもの手を引いて元気に走り出します。しかし普段の運動不足のせいか、子どもに手を引かれて

ゴールする姿もありました。そうした仲睦まじい親子に会場全体が

ほっこりする温かい雰囲気になっていました。

また今年も、友好交流都市である茨城県筑西市の職員の皆さんに多数参加いただき、マスコット

キャラクターの『ちっくん』がゴールで選手をお迎えするなど花を添えていただきました。

さてこの大会は、毎年、多くのスタッフ・ボランティアに支えられて開催しています。今年も、救護、給水、駐車場、選手誘導、走路安全など、市内の64団体770人にお手伝いをいただきました。

うち約180人が市内の高校生で、ランナー一人一人に「がんばり！」と声をかけてくれたり、最後まで残って閉会式を盛り上げてくれたり、後片付けも手伝ってくれました。こうした多くの市民の皆さんの協力があって、今大会を無事に終えることができました。

そして、最後に参加者からいただいた言葉が、「この大会はあったかいね。来年また来ます！」でした。

編集・発行 伊達市総務部企画課 令和8年4月23日発行 NO.243  
〒960-0692 福島県伊達市保原町字舟楯180番地 TEL024-575-1113 FAX024-575-2570 印刷・製本 株式会社 CIA